

平成 28 年 1 月 13 日

平成 27 年度臨時理事会議事録

開催日：平成 28 年 1 月 7 日(木)13:00～14:00

場 所：東京理科大学理窓会 PORTA 神楽坂 6 階 第 1 会議室

出席者：大河内 博、太田壮一、大塚宜寿、坂田昌弘、四ノ宮美保、柴田康行、清家伸康、高菅卓三
田辺信介、藤峰慶徳、森田昌敏、尹 順子、吉田寧子、吉永 淳(理事 14 名)(敬称略)
原田修一 (監事 1 名)(敬称略)

1. (議長選出)

定款 39 条に基づき柴田康行会長が議長を務める。

2. (定足数について)

出席理事は 14 名で全理事数の半数を超え、また監事 1 名も出席しており、定款 40 条を満足して理事会が成立することが確認された。

3. (議事録について)

議事録は事務局が記録、作成し、定款 44 条により議長並びに監事の記名押印をし、本学会 HP へ掲載する。

(本日の議題)

1. 25周年記念講演会開催の件

1-1 開催時期

1-2 開催場所

8 月の臨時理事会では、通常の 2 日半のスケジュールで討論会を開催する場合、25 周年の記念イベントを合わせて行うことはスケジュール的にかなりタイトになることから、討論会とは別に秋頃に行うのがよい、というのが意見の趨勢であった。しかしながら、今年度の討論会を初日の午後から開始するとの方針、また記念講演会の案と重なる内容の基調講演案が実行委員会で検討中であることがわかったことから、討論会と連携する形で初日の午前中に同じ朱鷺メッセで 25 周年記念講演会を開催してはどうかと柴田会長から提案があった。それに対して次のような意見があった。

- ▶ 集客を考えるとやはり討論会と一緒にするのが良いと思う。
- ▶ 討論会と同時開催と別に、もう一回東京或いは大阪などで開催してはどうか。
- ▶ 1 日目の討論会スタート前であると、前泊して参加する必要があるが、集客に心配ないか。
- ▶ 討論会 1 日目の午前中に講演会を行う案より、討論会のスタートを早めて、討論会 2 日目の懇親会前に記念講演会をおこなう方がよい。
- ▶ 25 周年企画にあわせて募金をおねがいしてはどうか。
- ▶ 記念誌の発行にあわせて、秋頃に 2 回目を開催してはどうか。

1-3 講演テーマ

1-4 講演者

講演テーマや講演者については下記のような意見が出た。

- ▶ この 25 周年企画を単なるお祝いではなく、学問としての活性化を図る機会としたい。

- ▶ 外部から目玉になるような講演者を呼んで、多くの方に参加してほしい。
- ▶ 環境省から講演者を頼む場合 6 月は難しい。
- ▶ 強いメッセージがほしい。

結論： 記念講演会の 1 回目として新潟の討論会にあわせて開催。討論会事務局と相談して、討論会に組み込んだ形で開催する。討論会実行委員会と連携をとりながら、テーマと講演者を選定し、講演会と討論会を通して環境化学の 25 年を振り返り、次の四半世紀の研究の方向性や課題について議論し考える場としたい。あわせて秋頃に 2 度目の記念講演会の開催を検討。あわせて例えば 25 周年企画にあわせて募金を頼み、次世代の活性化に資するなどの活動も今後考えていく。

2. 部会活動の活性化の件

2-1 支援策

環境化学分野の研究活性化にむけた活動として、前回の臨時理事会で、地区部会の活性化にむけた勉強会等の活動の支援や、調査研究部会活動の一環としての環境化学誌特集号編集などの案が出された。若手研究者の活動の活性化などについての意見交換も行われた。

今回の理事会では地区部会担当の大塚理事から、各地区担当幹事からの意見として以下の報告がなされた。

- ▶ 地区担当幹事は正幹事のみで他の部会のように副幹事がおらず、活動しにくい。
- ▶ 関東地区部会からは若手中心のシンポジウムや定期開催する小さな勉強会を企画したいと提案があった。
- ▶ 中部地区部会は過去にダイオキシン、PCB 等について岐阜で 3 回、名古屋で 3 回、講演会(+懇親会)を実施した。愛知県、岐阜県、三重県の学会会員が主体となって開催し、参加者 (20~30 人) が会場費などを負担した。ここ 1 年は実施していないが来年度の実施を検討中であると報告があった。
- ▶ 関西地区部会からは日本水環境学会 MS 技術研究委員会のシンポジウムとの連携の提案があった。また地区情報(各団体の講演会や求人情報、技術相談など)を共有するメーリングリストの立ち上げなども行いたいと支部組織がなく活動が難しいとの意見もあった。

地区部会担当理事の報告に対し、下記のような意見があった。

- ▶ 他学会では地区単位で講演会を毎年開催し、そのための組織もできているケースがある。
- ▶ 次回の評議員改選と幹事会の編成では正幹事を 45 歳以下の若手から採用して活性化するべきだと思う。
- ▶ 資金がなければ活動もできないので、サポーターズ募金などをもうけて活動資金にしてはどうか。
- ▶ 地区部会活動については、その地区で年会を開催した際の収益が活動資金になっている学会もある。

2-2 地区部会の地区割り

地区割りについては次のような意見があった。

- ▶ 他の学会では地区部会ごとに細則があり、どの地域がどの地区部会であるかが明記されている。
- ▶ 学会の会員分布を分析して地区割りする必要があるのではないかと。

- ▶ 集まりやすさも大切である。
- ▶ 討論会の開催地にあわせて支部を設立していった学会もある。


結論: 次回の評議員改選にあわせて幹事の人数を見直し、地区部会の体制を強化する。次年度から部会活動費を予算計上する。地区部会以外の活動についても、機関誌の特集号などにより活性化を図る。地区割りについてはまず会員分布を分析し、あらためて検討する。

3. 第 27 回環境化学討論会の開催地の件

藤峰理事より 2018 年の第 27 回討論会の開催地として沖縄(那覇)の提案があった。すでに実行委員長として門上先生の内諾を得ており、九州地区部会の協力を得ながら事務局主導型(ICAEC2014 形式)での開催が提案された。他に下記のような提案と意見があった。

- ▶ 時期としては 5,6 月がよい。
- ▶ 沖縄開催の問題点としてされていた旅費については、LCC を利用すればそれほどではない。
- ▶ IEEA や SETAC-J など他学会とのジョイント開催はどうか。
- ▶ 沖縄時間でのプログラム編成はどうか。

結論: 沖縄開催に異論はなく、このまま藤峰理事に計画を進めて頂くこととなった。

署名人 議長 柴田康行 

監事 原田修一 